

化学部会の新年抱負

—化学のパラダイムシフトを見据えた活動を考える—

New Year's Resolution of Chemistry Division

— Our activities for new waves occurring in chemical industry —

1 化学部会の活動状況

日本技術士会の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も皆様にとって幸多き年でありますようお願いいたします。

さて、化学部会の会員数は421名（2015年3月現在）で、大きな部会とはいえません。しかしながら、部会長会議で各部会からの報告事項を聞いていますと、化学部会のCPD活動は他部会と比べて遜色ないどころかかなり活発な方でした。また、部会内に「若手の会」及び近畿と中部に支部を持つ「化学物質管理研究会」が親部会の下で活動しています。活動状況を申し上げますと「化学部会」はこれまで、講演会では「セルロースナノファイバーの製造と利用」、「グリーン水素社会への展望」、「地球温暖化予測の現状とこれから」等の新技術や社会が直面する広範な課題への展望を、また見学会では「福島再生可能エネルギー研究所」や小田原市にある「海水総合研究所」等、より課題を仔細に理解できる機関を訪問しています。講演会や見学会へは、協力関係にある学協会や他部会からの参加者も少なくないで、魅力あるものと自負しております。

次に、若手の会ですが、現役社員の会員が参加し易いように、土曜日の午後に講演会や他部会との合同講演会を年3回ほど実施しております。「ものづくりの化学分析と解析技術」という化学のテーマに限らず、「日本における今後の原子力発電の位置づけ」といった境界領域まで踏み出した講演会を実施しています。更に、理科大好き人間を増やすことを目指し、小学生や保護者を対象にした「夏休み理科教室」を実施し、参加者からも「来て良かった」と喜んでもらっています。

そして、化学物質管理研究会ですが、異色の活動をしております。“化学物質管理士”という民間

表1 化学部会の講演内容

月日	項目	内容
H30.1.25	講演1	「地球史を読み解く」
	講師	丸山茂徳氏（東工大地球生命研究所特命教授）
	講演2	「化学の果たしてきた役割これまで及びこれから」
	講師	宮澤千尋氏（技術士化学部門）
H30.2.22	講演	「抗生物質学からケミカルバイオロジーへの展開」
	講師	長田裕之氏（理化学研究所環境資源科学センター副センター長）
H30.3.22	講演1	「リン循環産業ビジョンによる未来に輝くバリューチェーン」
	講師	大竹久夫氏（早稲田大学リンアトラス研究所客員教授）
	講演2	「未定」
	講師	技術士化学部門

間資格を創設する目的で立ち上げたグループで、化学部会に限らず、環境部会、生物工部会、応用理学部会の技術士が会員として参画しており、会員数は年を追って増えています。

この研究会は、昨年8月26日に機械振興会館で「化学物質管理」をテーマとする“技術士フォーラム”を開催しました。経済産業省、一般社団法人日本化学工業協会、(独)製品評価技術基盤機構から講師を招き、化学物質管理研究会の講師も加わって講演し、かつ化学物質管理分野でどう技術士が活躍するかに焦点を当てたパネルディスカッションも実施しました。

参加者は157名と大変盛況で、アンケートから見ると聴講者の90%以上が内容に満足して下さり、不満と答えた方は0%だったことは、主催者としては驚いたと共に満足しております。

2 化学物質管理士制度創設への試み

現在、この化学物質管理研究会が母体となって昨年4月25日に一般社団法人化学物質管理士協

会（Pro-MOCS）を法人登記し、化学物質を安全・安心に製造・使用する活動を開始しました。現在、「大学への教育講座開設」、「化学物質管理関連セミナーへの講師派遣」、消防庁が来年度検討している「危険物火災での専門家派遣依頼事業」への応募、「試験制度による人材育成」等の教育・啓発活動等に取り組んでおります。すぐに効果が上がるものではないかもしれませんが、価値ある社会貢献活動なので、課題を一つ一つクリアしながら進めていってくれることを期待しております。

3 三地域合同部会

平成31年度から部会長が選挙で選出されることになり、地域組織との全国的連携が要求されますが、別個に活動していた組織が横連携するのは結構難しい話です。これまで、化学部会では毎月実施される幹事会に近畿本部、中部本部からの幹事1名がメンバーになっていました。しかし、旅費の負担が課題で常時の出席は難しいため、毎年9月に蓼科にある筆者出身企業の施設で、顔つなぎを兼ねて自由参加の三地域合同部会・懇親会を開催しています。会を重ねる毎にお互い気心も知れ、情報交換も密になり、併せて化学部会の今後の運営、地域組織との連携をどう進めていったら良いか等、活発な意見交換が行われています。

ただ、「会員拡大をどうするか」、「地域組織との連携を密にするには、地域間移動のための交通費の補助、それが十分でなければ多地域間のweb会議効率化」ということが課題として残ります。化学部会としての努力はするものの統括本部への注文・要望は大きくなり、これらは待ったなしの課題だという結論になりました。

4 化学部会創立60周年記念行事

化学部会は、本年9月29日（土）に千代田区永田町にある星陵会館で創立60周年の記念行事を催すことを計画しています。60年前というと、皇太子妃（現皇后陛下）が決定し、巨人・長嶋茂雄選手が4打席4三振デビューし、アメリカ初の人工衛星「エクスプローラー1号」が打ち



写真1 長嶋選手4打席4三振デビュー

上げられ、世界初のインスタントラーメン「チキンラーメン」が発売されました。

思えば随分昔のように感じられますが、先輩技術士の方々は感慨がひとしおだと思います。化学部会はこれまでを振り返り、今後何を期待するかを内容とする記念誌を作成し、多くの来賓の方々にもお出でいただくと共に日本製薬工業会副会長、一般社団法人日本化学工業協会常務理事他の基調講演をいただき、「若手技術士に化学部会活動のバトンをどう手渡して行くか」をテーマとするパネルディスカッションを行うことも計画しています。

5 化学部会の今後の展望

日本技術士会として社会的課題への取組は、災害防止活動、裁判支援活動、理科支援活動、地域本部・支部と現地各種機関との相互協力活動等が実施されており、また登録グループや技術士個人による社会的課題解決への取組が行われております。これからの取組に化学部会の上記活動が参考になれば嬉しく思います。

秋葉 恵一郎（あきば けいいちろう）
技術士（化学部門）

化学部会 部会長
化学物質管理研究会会長
一般社団法人化学物質管理士協会
副代表理事
e-mail : akibak@yg8.so-net.ne.jp

